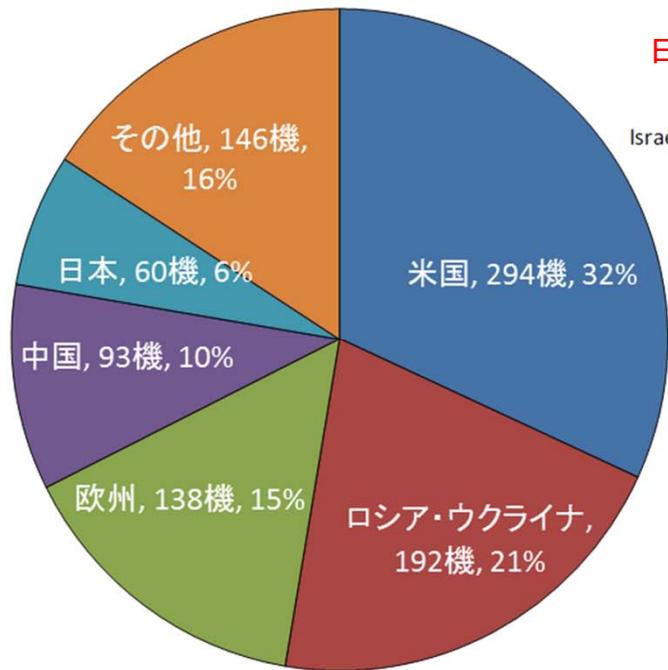


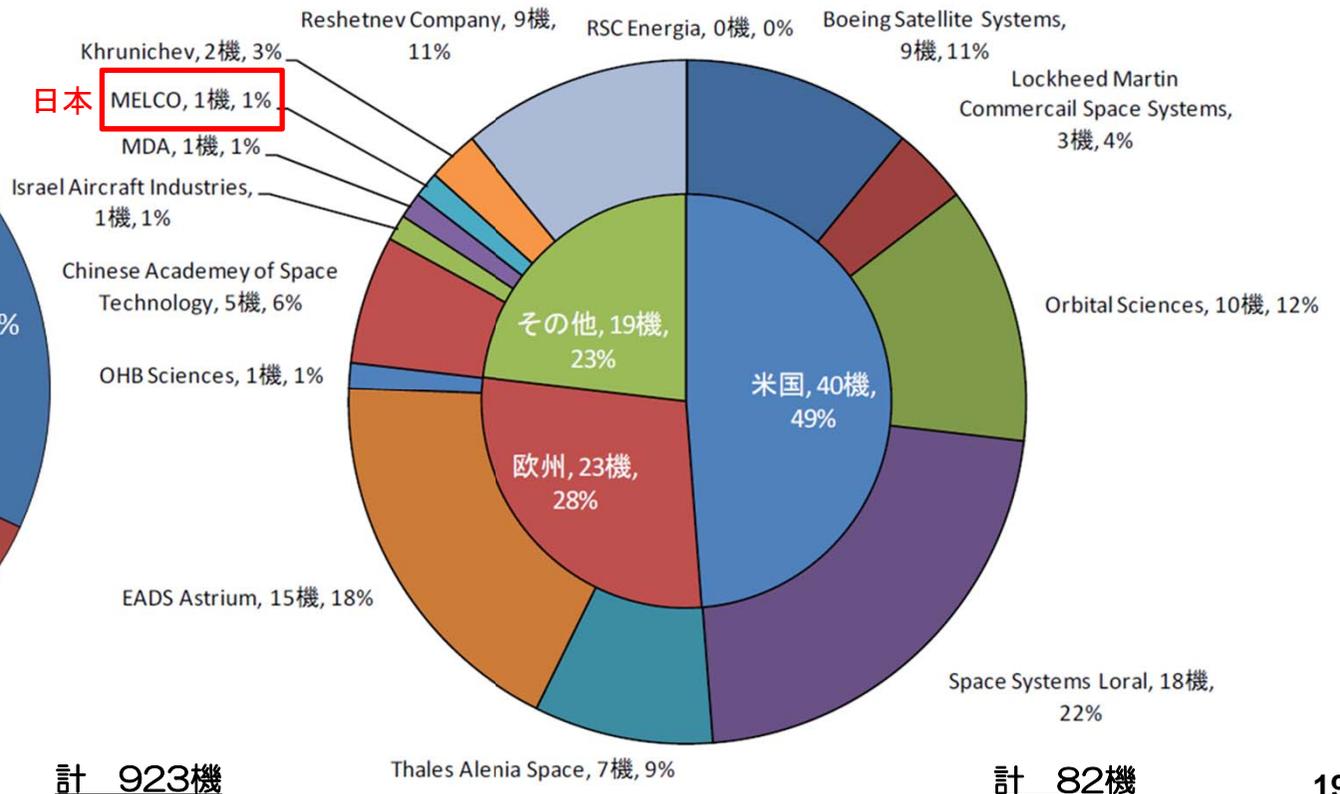
## 5. 衛星分野の国際動向と日本の位置付け

- 世界の衛星打上げ実績は年間平均約92機。日本の打上げ実績は世界のわずか6%。
- 世界の衛星の商業利用の大部分を通信・放送分野が占めるが、日本の産業競争力は低く、これまで日本企業が受注したのは4機

世界の人工衛星打上げ実績(2002~2011年)



商業静止衛星企業別受注残・受注機数シェア(2010年)



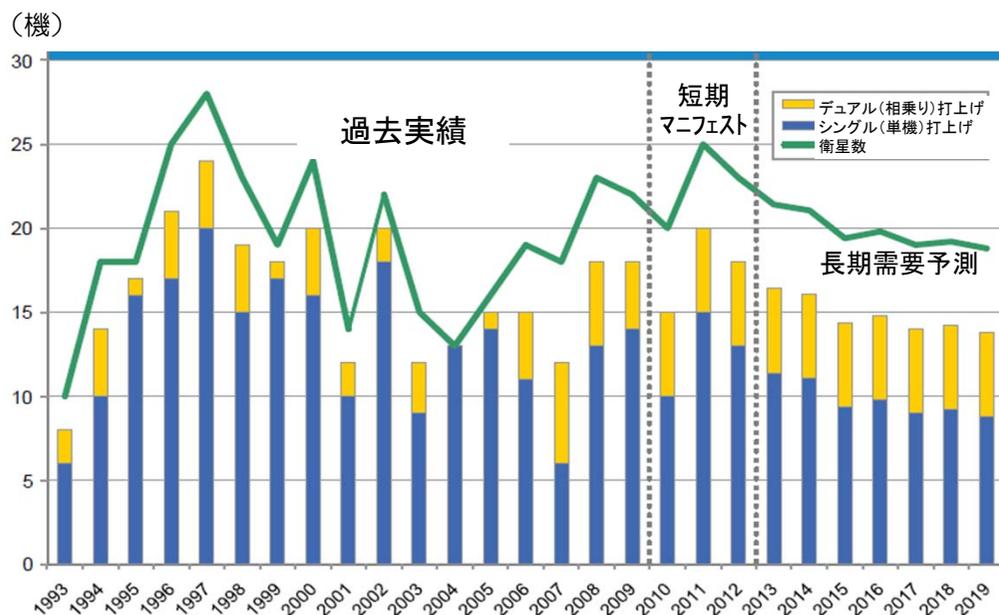
計 923機

計 82機

# 世界の衛星打上げ需要の実績と展望

- ・世界の静止衛星（主に通信・放送分野）、周回衛星（非静止衛星；主に測位衛星とリモートセンシング衛星）の実績と需要予測は以下のとおり。
- ・これらは政府関連衛星（打上げを自国ロケットで実施）や、情報が開示されていない構想段階の計画は含まないため、実際の打上げ数はこれを上回る。
- ・産業競争力を強化するためには、商業打上げ市場の開拓に加え、今後増加が見込まれる途上国の衛星や、海外の官需等の新しい市場の開拓を行うことも必要。

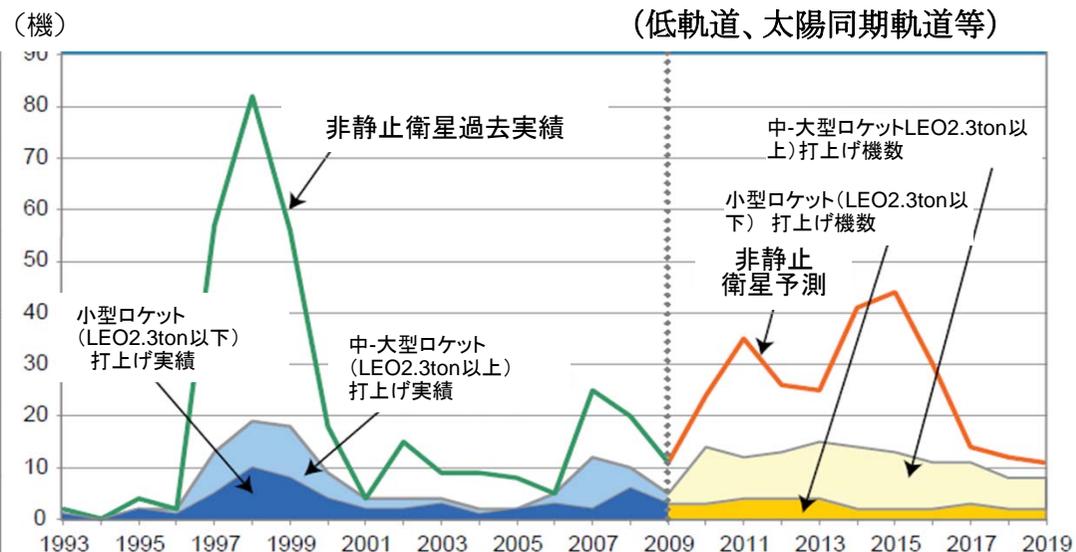
## ■世界の商業静止衛星打上げ実績・展望



- 今後10年間、衛星数は20機/年程度で推移する予測
- 一定規模の相乗り打上げを予測

出典：米国連邦航空局（FAA）報告書

## ■世界の非静止衛星商業打上げ実績・展望



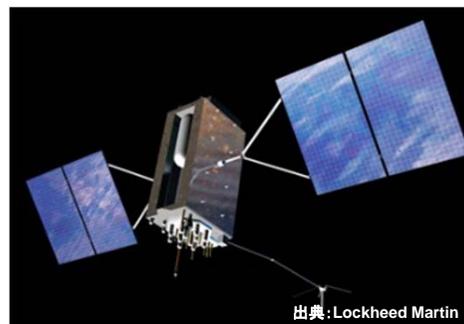
- 2010年から10年間で119回の打上げ需要を予測。  
（次世代イリジウム、グローバルスター等の打上げ予測による増大）
- 同じ軌道面に複数の衛星を配備する場合は、相乗りで打上げるのが主流。（今後10年間の衛星機数予測は262機、1機打上げ当りの平均衛星数2.2機）

## 5-1. 衛星分野の国際動向と日本の位置付け ～測位衛星分野～

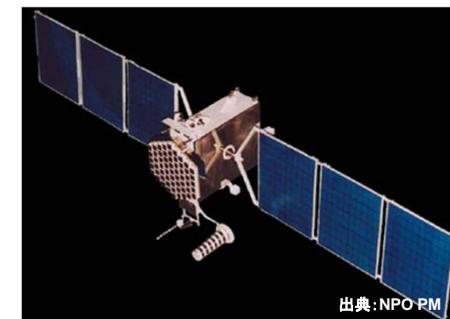
- 我が国は民生用として世界最大規模のGPS利用国。
- GPSの補強・補完を目的とした日本独自の準天頂衛星システムを開発し、初号機「みちびき」を2010年9月に打上げ。
- 「**实用準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方**」(平成23年9月30日閣議決定)において、2010年代後半を目途にまずは4機体制を整備し、将来的には、持続測位が可能となる7機体制を目指すこととした。



準天頂衛星  
(日本)



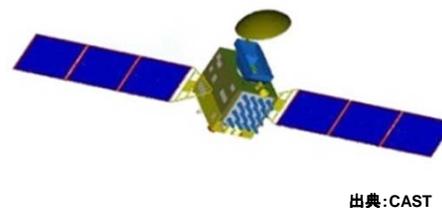
GPS衛星  
(米国)



GLONASS衛星  
(ロシア)



ガリレオ衛星  
(欧州)



北斗衛星  
(中国)



IRNSS衛星  
(インド)